



俳諧十家類題集

冬

5
1645
4



門 へ 録
 種 1.645
 心 4



俳諧十家類影集冬之類

○ 目錄

冬川	山茶花	風	初霜	火桶	爐	遠摩忌	十月	冬	初冬	小春	神無月	壬猪
冬の目	茶花	冬木立	霜	火鉢	爐用	法合簿	十夜	法取哉	戎講	失念膏		
冬の目	枯尾卷	枯木	霜解	秋半冬	口切	不いろ	火燵	埋火				
冬の目	枯野	冬枯	冬枯	冬の衣	初時	時雨						
冬の目	冬野	枇杷卷	木の葉	木の葉	木の葉	木の葉						
冬の目	冬菜	冬菜	冬菜	冬菜	冬菜	冬菜						

葦漬 芸引 麦蒨 風呂吹 葦汁 納豆
 納豆汁^{十一} 初雪^{十二} 落氷 初氷 冬月 氷むと
 納代守^{十四} 納代^{十五} 千鳥^{十五} 鷗 水鳥 鷺
 鴨 みるく^{十六} 鷓鴣 ねずみ 冬蠅 十月蚕
 蟬 海鼠 鮫汁^{十七} 鱧 魷 鰻 鱈 魚^{十八}
 炭竈 炭焼 炭 炭取 炭賣 炭俵
 摘綿 ぬい^{十九} ぬい 衾 衾 衾 子
 須中^{二十} 履袋 足袋 冬籠^{廿一} 冬拵 曆賣
 霜月 袴着 冬至 室の梅 冬の梅 顔見世
 神樂^{廿二} 里神樂 防火燧 鈴叩^{廿三} 雪^{廿四} 雪丸者
 雪やけ 雪吹 霰^{廿五} 玉霰^{廿六} 氷柱
 冬目一

雪の水 氷 共 冴き の 仙 葱 蕪
 鷹 層符 雪音 暖鳥 鯨 杜又魚
 煮凍 生薑^{廿七} 蕎麦湯 薬喰 十二月 早梅
 雪梅 冬栴 臘 八^{廿八} 雪^{廿九} 雪^{三十} 佛名會
 雪音 雪月 雪お 雪他 乾鮭 生鮭^{卅一}
 鯉 仗 師老 古曆 煉拂^{卅二} 餅搦 篠花^{卅三}
 節季儀 さこね ち^{卅四} 終 年裁 節分 晩冬
 年内之春 懸乞 年の市^{卅五} 笨言 年積了 年浪
 年の漱 年の夕 年の尾 年の内 流る年 岡見
 年本樵^{卅六} 衣配 年の宴 年守 年取 年の雛
 年十忌 年々暮^{卅七} 老の言 行年^{卅八} 年々々々 王子孤

大三十日 大晦日

俳諧十家類題集冬之部目錄終

冬目三

俳諧十家類題集冬之部

○十月

八千坊 輯校

立冬

冬を山の中 陸の傍のよみは

祐徳

初冬

冬を山の中 陸の傍のよみは

其角

小春

初冬を山の中 陸の傍のよみは

蕪村

小春

初冬を山の中 陸の傍のよみは

言水

神無月

初冬を山の中 陸の傍のよみは

言水

神無月を山の中 陸の傍のよみは

言水

達摩忌

玄猪

升を月ぬらるる若く先んきと
 ちかやし社宜の湯治の升を月
 洗るる居る中りきなり升を月
 卯塔の舞臺やしきり月を月
 猿掃首たりてをむらん升を月
 宗任より仙んをよこりてなはよ
 玄猪とやし祖又のうこし枝折萩
 三月月のおく〜とほとよ玄猪が
 むきふの下敷もいりらんこを徳も
 きこりてやき谷のうんも穀ありし

其角
 来山
 蕪村
 其角
 希因

冬一

御命講

十夜

御命講 掃るるのさる蠅のほし
 陰命孫やし油のやうな酒入所
 桑野のさうけりしきり陰命孫
 十夜 狐鳴りの納豆たきをり
 あききさたり〜く信む十夜を
 祖又よりりきり〜と十夜を
 あま〜と〜と〜と〜と十夜を
 ちかやし社宜〜と〜と〜と
 振うりの居る〜と〜と〜と
 やまねりし小者投きり〜と〜と

麦林
 芭蕉
 言水
 希因
 蕪村
 芭蕉
 其角

惠比須講

御取越

福天の産物よとる中仕切膳 其角

又と衣染ねいはひかり 其角

炭産山中とる中とる所の戒とる 其角

保民のやまの吹の吹る 其角

又葉取とる 其角

糖の賦王流とる 其角

炉又焚てきつりを握る 其角

炉中の中やゆをさる 其角

炉ひとるの目をさる 其角

炉ひとる中 雪中産の茶 酒 其角

矢倉賣

爐

十

炉開

冬二

口切

火餅

火

火

火

火

火

火

火

火

くらとる小流の産とる 芭蕉

茶の師とる 其角

口切やとる 其角

くらとるや小流とる 其角

口切やとる山流とる 其角

口切やとる福我位とる 其角

口切やとるねとる 其角

口切やとる青砥とる 其角

口切やとるねとる 其角

口切やとるねとる 其角

口切やとるねとる 其角

希因
 来山
 蕪村
 其角
 埋火
 埋火の事をもくし中をくくると
 埋火の事やくくんと
 埋火の中に出るうけこいりり
 うつと中の中をくくると息うけん
 埋火や終る煮る鍋の事を
 雲の後接まさける火桶々の
 火桶
 火桶の波をかき中火桶
 其角

冬三

来山
 蕪村
 言水
 火鉢
 火鉢の中は不ぬ中のくく火鉢の
 夜半冬
 夜半冬の事をもくし中をくくると
 冬のお
 冬のお事をもくし中をくくると
 初時雨
 初時雨の事をもくし中をくくると
 言水

春日の月　つらき　よ　し　物　し　る　も
 桐の　まの　吹　ま　し　く　て　お　し　る　れ
 空　紫　の　雲　を　こ　う　ん　あ　し　る　も
 瓢　箪　の　形　も　ま　る　や　あ　つ　る　も
 赤　い　雲　の　け　り　し　た　る　あ　つ　る　も
 傍　を　う　る　色　の　け　り　し　た　る　あ　つ　る　も
 忍　し　き　や　も　う　る　や　あ　つ　る　も
 み　の　む　し　の　け　り　し　た　る　あ　つ　る　も
 あ　し　る　し　て　も　あ　つ　る　あ　つ　る　も
 あ　し　の　け　り　し　た　る　あ　つ　る　も

希因
 蕉村
 希因

春日
 大徳

時雨

晴　う　る　の　雲　を　あ　つ　る　も
 つ　尾　ね　の　け　り　し　た　る　あ　つ　る　も
 傘　持　て　の　け　り　し　た　る　あ　つ　る　も
 中　の　け　り　し　た　る　あ　つ　る　も
 天　の　け　り　し　た　る　あ　つ　る　も
 旅　の　け　り　し　た　る　あ　つ　る　も
 網　を　の　け　り　し　た　る　あ　つ　る　も
 釣　柿　の　け　り　し　た　る　あ　つ　る　も
 時　雨　の　け　り　し　た　る　あ　つ　る　も
 時　雨　の　け　り　し　た　る　あ　つ　る　も

芭蕉
 言水
 素堂
 其角

いささかともいふに時をわづらふるの聲はき 其角
兼をこめて逢うやと見え夕時くれ
逢ううらな片目さうりやむく時
八重け捕の板をささるうらな
塙幅やしがを捨てるうらな
時を癒おれの物干ささる
今態をささるうらな
まをささるうらな
三入の身を西河のうらな

夢さうらう見えぬ夕夜むく時
飼猿の川見え時
舟鳴のうらな
小ねくをれ人をささるうらな
葉をぬき牛のうらな
時を癒おれの物干ささる
時を癒おれの物干ささる
時を癒おれの物干ささる
時を癒おれの物干ささる
時を癒おれの物干ささる

係 谷 中 し 志 々 々 時 雨 の ま じ り し
 霧 城 雲 々 一 一 丸 丸 丸 丸 丸 丸 丸 丸
 障 目 の 山 持 持 持 持 持 持 持 持
 葉 葉 一 把 牛 牛 牛 牛 牛 牛 牛 牛
 君 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
 志 々 々 志 々 々 志 々 々 志 々 々 志 々 々
 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
 化 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
 休 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

嵐雪

希因

芭蕉

来山

一冬六

干 羽 子 入 日 陰 陰 陰 陰 陰 陰 陰 陰
 又 夜 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々
 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
 香 の ま ひ を 食 む 食 む 食 む 食 む 食 む 食 む
 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
 時 雨 や 志 々 々 志 々 々 志 々 々 志 々 々
 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
 夕 時 の 暮 暮 暮 暮 暮 暮 暮 暮 暮 暮 暮 暮
 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
 古 傘 の 陰 陰 陰 陰 陰 陰 陰 陰 陰 陰 陰 陰

麦林

蕪村

志らぬや 義堂上人のやまもり
 志らぬや 嵐のこころ 寒うらうえ
 梅の根を 藪よぬふとこ ーらまが
 初霜 初霜よ けしきふとこ ー舟の舟
 霜 霜ふし 鳥のこころ けしき ー花
 芭蕉 いつれ根 無よ 霜のこころ ー
 今歳の ちのち けしき ー
 淡楽峰の 大洞 ー ー
 栗飯の ちのち けしき ー
 山火を ー ー ー

其角
 言水
 素堂
 其角

海よ 志らぬや ー ー
 海よ 志らぬや ー ー
 無根 志らぬや ー ー
 石 志らぬや ー ー
 梅の 志らぬや ー ー
 志らぬや ー ー
 志らぬや ー ー
 志らぬや ー ー
 志らぬや ー ー
 志らぬや ー ー

芭蕉
 来山
 芭蕉
 来山
 芭蕉

落葉

霜解

渚はつぬるをさうきり袖の上
 花をさかん人やおらその底の人
 松陰よ花をさかんをさかんをさかん
 さかんも二日月えんをさかんをさかん
 かへ火の中へさかんをさかんをさかん
 一葉らういんをさかんをさかんをさかん
 さかんをさかんをさかんをさかんをさかん
 木をの目さかんをさかんをさかんをさかん
 古寺の葉あかんをさかんをさかんをさかん
 さかんをさかんをさかんをさかんをさかん

法徳
 素堂
 来山
 嵐雪
 麦林
 蕪村

待人の足音をきこふちりさつ那
 さかんをさかんをさかんをさかんをさかん
 さかんをさかんをさかんをさかんをさかん
 さかんをさかんをさかんをさかんをさかん
 さかんをさかんをさかんをさかんをさかん
 さかんをさかんをさかんをさかんをさかん
 さかんをさかんをさかんをさかんをさかん
 さかんをさかんをさかんをさかんをさかん

希因
 希因
 希因
 希因
 希因
 希因
 希因

木の葉
 風の音
 さかんをさかんをさかんをさかんをさかん
 さかんをさかんをさかんをさかんをさかん
 さかんをさかんをさかんをさかんをさかん
 さかんをさかんをさかんをさかんをさかん
 さかんをさかんをさかんをさかんをさかん
 さかんをさかんをさかんをさかんをさかん
 さかんをさかんをさかんをさかんをさかん

希因
 言水
 希因
 其角

其角
 嵐雪
 麦林
 蕪村
 其角
 嵐雪
 麦林
 蕪村

其角
 希因
 其角
 蕪村
 其角
 蕪村
 其角
 枯木
 其角

枯木

枯木

枯木

冬木

冬木

冬枯

枯れ川や停泊の嶽も枯れり

芭蕉

枇杷巷

柳さむくらうのむらさきの雲は

其角

帯巻

うしろの帯巻もせぬあまの夏

希因

うしろの帯巻もせぬあまの夏

其角

山茶花

山茶花の園鳴りの夕べ

来山

茶花

茶の葉や利休の月より

素堂

冬十

葉

茶の葉や利休の月より

蕉村

枯尾志

茶の葉や利休の月より

蕉村

枯野

茶の葉や利休の月より

沾徳

本

茶の葉や利休の月より

其角

本

茶の葉や利休の月より

蕉村

本

茶の葉や利休の月より

蕉村

蕪村	ふは 捲るも 舞るも くるも てゝ くれ 柳も なる るは 捲るも 舞るも くるも てゝ くれ 柳も なる さ 前より ころ ころ ころ ころ ころ ころ ころ ころ 捲るも 舞るも くるも てゝ くれ 柳も なる ふと 舞るも くるも てゝ くれ 柳も なる おひしこ せ 我も くるも てゝ くれ 柳も なる 杭の くるも くるも てゝ くれ 柳も なる 冬川 だけ 谷の くるも くるも てゝ くれ 柳も なる 冬の日 梅の くるも くるも てゝ くれ 柳も なる 寒業 雪の くるも くるも てゝ くれ 柳も なる	其角	冬 野
希因	さ 前より ころ ころ ころ ころ ころ ころ ころ ころ	来山	林 野
其角	ふと 舞るも くるも てゝ くれ 柳も なる	其角	冬 景
沾徳	杭の くるも くるも てゝ くれ 柳も なる	沾徳	冬 川
麦林	冬の日 梅の くるも くるも てゝ くれ 柳も なる	麦林	冬 の 日
	寒業 雪の くるも くるも てゝ くれ 柳も なる		寒 業

来山	さ 前より ころ ころ ころ ころ ころ ころ ころ ころ さ 前より ころ ころ ころ ころ ころ ころ ころ ころ さ 前より ころ ころ ころ ころ ころ ころ ころ ころ さ 前より ころ ころ ころ ころ ころ ころ ころ ころ さ 前より ころ ころ ころ ころ ころ ころ ころ ころ さ 前より ころ ころ ころ ころ ころ ころ ころ ころ さ 前より ころ ころ ころ ころ ころ ころ ころ ころ さ 前より ころ ころ ころ ころ ころ ころ ころ ころ さ 前より ころ ころ ころ ころ ころ ころ ころ ころ さ 前より ころ ころ ころ ころ ころ ころ ころ ころ	言水	石 露 花
蕪村	さ 前より ころ ころ ころ ころ ころ ころ ころ ころ	蕪村	大 根 引
芭蕉	さ 前より ころ ころ ころ ころ ころ ころ ころ ころ	芭蕉	小 垣 引
希因	さ 前より ころ ころ ころ ころ ころ ころ ころ ころ	希因	大 根 引
嵐雪	さ 前より ころ ころ ころ ころ ころ ころ ころ ころ	嵐雪	大 根 引
麦林	さ 前より ころ ころ ころ ころ ころ ころ ころ ころ	麦林	大 根 引
其角	さ 前より ころ ころ ころ ころ ころ ころ ころ ころ	其角	大 根 引
嵐雪	さ 前より ころ ころ ころ ころ ころ ころ ころ ころ	嵐雪	大 根 引
其角	さ 前より ころ ころ ころ ころ ころ ころ ころ ころ	其角	大 根 引

麦時

麦の穂が熟し、刈り入れの時期

麦林

結徳

麦の穂が結ぶ徳

結徳

蒸村

麦の穂が蒸らす村

蒸村

其角

麦の穂が其角

其角

風呂吹

麦の穂が風呂吹

其角

蒸汁

麦の穂が蒸汁

蒸村

納豆

麦の穂が納豆

蒸村

納豆汁

麦の穂が納豆汁

蒸村

麦の穂が納豆汁

蒸村

冬

初雪

初雪が降り、冬が始まる

芭蕉

初雪が降り、冬が始まる

芭蕉

初雪が降り、冬が始まる

芭蕉

初雪が降り、冬が始まる

芭蕉

初雪が降り、冬が始まる

芭蕉

初雪が降り、冬が始まる

芭蕉

初雪が降り、冬が始まる

芭蕉

初雪が降り、冬が始まる

芭蕉

初雪が降り、冬が始まる

芭蕉

初雪が降り、冬が始まる

芭蕉

冬月 朔の夜も 月を 照らす 人々の 影
 冬月 朔の夜も 月を 照らす 人々の 影
 冬月 朔の夜も 月を 照らす 人々の 影
 冬月 朔の夜も 月を 照らす 人々の 影
 冬月 朔の夜も 月を 照らす 人々の 影
 冬月 朔の夜も 月を 照らす 人々の 影
 冬月 朔の夜も 月を 照らす 人々の 影
 冬月 朔の夜も 月を 照らす 人々の 影
 冬月 朔の夜も 月を 照らす 人々の 影
 冬月 朔の夜も 月を 照らす 人々の 影

其角
 嵐雪
 希因
 麦林
 蕪村
 冬十三

冬月 朔の夜も 月を 照らす 人々の 影
 冬月 朔の夜も 月を 照らす 人々の 影
 冬月 朔の夜も 月を 照らす 人々の 影
 冬月 朔の夜も 月を 照らす 人々の 影
 冬月 朔の夜も 月を 照らす 人々の 影
 冬月 朔の夜も 月を 照らす 人々の 影
 冬月 朔の夜も 月を 照らす 人々の 影
 冬月 朔の夜も 月を 照らす 人々の 影
 冬月 朔の夜も 月を 照らす 人々の 影
 冬月 朔の夜も 月を 照らす 人々の 影

其角
 芭蕉
 其角
 芭蕉
 其角
 芭蕉
 其角
 芭蕉
 其角
 芭蕉

細代守

我を指すしりきさうれ 麦林
 使者指す懐くもささか 其角
 たりしりの輝りささか 山
 針を月ふくしりきさうれ
 書くやる屏風のしりきさうれ 希因
 我を指す首上りささか 来山
 易あふしりきさうれ 蕪村
 寺まきく櫓ささか 蕪村
 四をふくしりきさうれ
 火の勢平くささか 言水

冬十四

細代
千鳥

細代も大ねをささか 其角
 ささかささかささか 細代守
 細代もささかささか 麦林
 新つらりしりのあふささか 其角
 園りおや菜をささか 芭蕉
 ひささささささささ 言水
 ささかささかささか 言水
 揖さのささかささか 希因
 越後屋のささか 其角
 鳴子もささかささか 其角

村よきよりのあるさくさく鹿り降
 浦崎さくさく鳴るも大井町
 心をや冬さ申さるる浦ふも
 くら日和さ月のをさくさく村崎
 境撫さや殺てさ白くく破ふも
 沖の帆もすさくさくさく
 中くも取さと河川ふも
 管舟の遠さなすさくさくさく
 鳴るさくさくさくさく
 望のありさくさくさく村ふも

其角

希因

麦林

冬十五

羽織さくさく羽もさくさく河川
 風さくさくさくさく月の子も
 如衣人の心をさくさくさく
 孫さくさくさくさくさく
 さくさくさくさくさくさく
 汐波の穂首も波のさくさく
 さくさくさくさくさくさく
 水さくさくさくさくさくさく
 さくさくさくさくさくさく
 さくさくさくさくさくさく

蕪村

希因

其角

蕪村

其角

結徳

3B

鷗
水鳥

鴨

滝口やあひひたぐも水の登る 其角
 十ふと登るよはくたぐも水登る
 登る登るの登るよはくたぐも水登る
 登るのたひひつ付中山おろし 希因
 里るるちいひ登るをんたぐも 蕪村
 登るのちを登るやちい登るのちを 嵐雪
 鴨あまをちい登るよはくたぐも水
 鴨あまをちい登るよはくたぐも水
 鴨あまをちい登るよはくたぐも水
 鴨あまをちい登るよはくたぐも水

みくはく

希因
 其角

鷓鴣

鷓鴣や 焼火よりけり 羽人なる 沾徳
 宮あかりのちの掛葉よみそお
 お鳥引登る人おや 登るよはくたぐも
 大引て登る鷹おはくちい登るよはくたぐも
 お鳥引や大の登るよはくたぐも 蕪村
 登るよはくたぐも登るよはくたぐも 其角
 登るよはくたぐも登るよはくたぐも 嵐雪
 登るよはくたぐも登るよはくたぐも 素堂
 登るよはくたぐも登るよはくたぐも 其角

夜鳥引

鷓鴣

冬 蠅

十月 蝿

海胤

さきさきとてさるるさるるかきひらりみ

嵐雪

海胤くさくさむつりつねや袖位

海胤冷いさるるさるるさるるさるる

ほうほうの海くさくさけて海胤

木のさくさくさくさくさくさくさく

けいけいさくさくさくさくさくさく

その中へ鼻さくさくさくさくさく

生さるさくさくさくさくさくさく

人さるさくさくさくさくさくさく

鉄砲のさくさくさくさくさくさく

鮫汁

其角

芭蕉

麦林

希因

冬十七

鮫汁

鮫汁ふ又本州のさくさく

鮫汁のさくさくさくさくさく

まあるさくさくさくさくさく

舟落し鮫汁のさくさくさく

はねたさくさくさくさくさく

鮫汁のさくさくさくさくさく

結人ゆきさくさくさくさく

さくさくさくさくさくさく

名をさくさくさくさくさく

寂寥のさくさくさくさく

其角

嵐雪

希因

素堂

希因

素堂

希因

鯉 鯉
鯉 鯉
鯉 魚

河豚の血をとり人をして白眼が
きつるせそやうき傷よ鯉しる
焼く所の異人いさふしゆけ
ゆけの糸活きて居る鯉は
鯉汁の右赤くゆき焼く
焼くて鯉をゆいてみる西人よ
焼くて鯉をゆいてみる西人よ
鯉汁をゆいてみる西人よ
下人鯉をゆいてみる西人よ
何よき人鯉をゆいてみる西人よ

蕪村
其角
嵐雪
其角

冬十八

炭 竈

炭竈や、炭木を焼く井の形に

其角

炭 焼

炭やそのひらきをしん金のま

其角

炭

まき炭割る火を火の燃る

木山

炭 取

片眼の炭やとてそのをゆいて

沾徳

炭 賣

炭をゆいて火桶より並に居る

其角

炭 儀

炭をゆいて火桶より並に居る

其角

炭 儀

井の隅乃小倉をゆいて炭儀

其角

蒲綿

ほろほろ又兎の耳を引くとも
ふんふんきりてきりるさうさうやふ山

其角 嵐雪

大

いさよせし蒲団千さうり原たの黒

蕪村

大

虎の尾を踏はく様ふふんふん

大

夜着

古ふふふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふふふふ

来山

衾

後後ふは衣を天下の衾とふ
か〜ぬくや〜ぬん様くや古衾

嵐雪

沙汰律のさうり〜とぬとぬとぬ

蕪村

冬十九

紙衾

ふふふふふふふふふふふふふふ

紙子

よ〜ふふふふふふふふふふふふ

言水

ふふふふふふふふふふふふふふ

其角

ふふふふふふふふふふふふふふ

大

ふふふふふふふふふふふふふふ

来山

ふふふふふふふふふふふふふふ

蕪村

頭巾

老をゆくは... 蘇村
 若貴ふ雪の... 芭蕉
 倉土のうし... 素堂
 乃りれま... 沾徳
 朝嵐子の目... 其角
 目をうり...
 昔のまを... 麦林
 引うをて... 蕪村
 めやう...
 水...

履と鞆 足袋 冬籠

うん... 言水
 所... 蕪村
 此巾... 嵐雪
 系... 芭蕉
 足袋...
 足袋...
 強波津...
 後の...
 金...
 新... 其角

備くもやうなしたんおろり 其角

徳く甲崗を居まふ申さる

ほろくんと磯の老やいさるり

あらうく 穰をよおし冬を登 希因

よされの魚もやういさる

眼とつらさまうは負しおろ 来山

松もさうぬる腐や子あらり 麦林

強おもなまかりうさるる 蕪村

居眠しておまういさるり

ふんぼろをくつろりのやまお停

冬廿一

軒

みずりり 於下いさるり

其角

冬構

粉をすく 傍のまゝもさるり

其角

曆賣

はらうしやまう十月の曆うり

来山

懸良田

あはれをいさるり

来山

〇霜月

あはれをいさるり

来山

袴着

袴をよぶのまゝ履らぬ

来山

冬至

新玉馬の地をを傍らく

蕪村

冬

あはれをいさるり

来山

室の梅 室の梅 室の梅

冬の梅 冬の梅 冬の梅

顔見世 顔見世 顔見世

替賣 替賣 替賣

公掛 公掛 公掛

神樂 神樂 神樂

蕪村

其角

希因

蕪村

其角

蕪村

其角

其角

冬世

里神樂
法火燒

神叩

わらわら海邊の竹の法火白くさけ

湯よみ糸糸の袖をぬりしりり

そとれとたり縁路をんて里神樂

法火焚やしもあつたけりききき西

法火焚やたもわくくきき魚

本曲の塚もえんきき神をきき

神をききききききききききき

神をききききききききききき

よききききききききききき

嵐雪

来山

其角

蕪村

芭蕉

言水

来山

其角

鼻うんこくたむけを雪れくも 沾徳
 幸の海よりくくく 4. の雪
 池よりなりも力よなり 杉の雪
 雪成りて後いふまを志くくた山を 其角
 なるく茶のたさくくく 盧今も雪成り
 雪よやくくくくもも 藤流の女より
 濃純なりけいも 伴なり 板の雪
 伊木のふくくく 務は中し 雪の友
 親加とくくく 雪の思ふくく
 冬はくくくしい物と後すん 垣根くく

冬廿四

青縁を雪の 裾那を 丸合羽
 思縁のふくくくくくく 園の雪
 揚を陰くくくくくくく 雪れ後
 階居の朱買 巨なり 由美の神
 かいこくく 井田 帰る 雪の雪
 殿覽の人よかたりはくくく 雪
 雲縁のくくく 雪をゆくとくくく
 雪の目くくくくくく 雪思ふくく
 戸陰子のふくく 雪なり ねの雪
 雪雪中し 大の雪 枯る 山の雪

蛇をせよ木をえとせよゆきのつね
桑の雪のふりやしと朝のむさ
雪まきと鳥のけりやしと朝の雪
秋の栞も雪の枯木やみそさる
侍を^後あさるるふらん雪の栞小舟
我や船半よ雪占く草本高也
とりく^後船ももつふ船雪のふり
餘のそりふり^後ぬねを雪の栞
ふゆの栞よ瀧りり雪の踏
つらとせよせよとせよふり雪とよめ

嵐雪
麦林

希因
其角

来山

雪を

花とよむ雪のふりほりふり
らるるそてゆきや雪のは丘たみ
雪を汲んて^後船のぬね
是いとら朝夕くふ雪のふり
海雪ふりりるふ雪のふり
春とよぬ火を^後雪のふり
い^{カタチ}雪ふん^{カタチ}雪ふん
灯火やふりられぬ雪の中
漁家も雪のふり
雪のふり雪のふり

嵐雪

麦林

希因

其角

来山

雪を

雪白く加茂の氏人きてうて 蕪村

編みかけて流の小橋を雪のうへ

雪折やし雪を流す焚火の下

雪折やし雪を流す焚火の下

雪丸け

君火くけよきよりのうへを雪丸け

芭蕉

雪やけ

石ころん雪焼男くらからし

来山

雪吹

長持や激田よおえん雪吹松

其角

岩つせし刀投出れ雪吹り那

蕪村

霰

武士の足て着くくくくく

嵐雪

夏骨やしりくもそやとくく

其角

冬廿七

くくくくくく本城は消る雪く那

武蔵野やあまの雪のころそふ

雪のく雪をくくくくも柄く那

くくくくく矢程のくくくくく

蕪村

海くくくくく雪や雪は流のふせ

其角

秋もくくくくく雪をくくくく

嵐雪

玉を流す母の編をくくくく

蕪村

ふもくくくくく竹のふくく七日市

其角

くくくくくくも身はくくくくく

古池りくく雪流くくくくく

蕪村

水

雪

雪

雪

氷柱

氷柱の結ぶるはらり氷柱の

其角

ねのききまはらりのさうきり

おひて様ははらりれはらり

来山

ゆさるのまじりしをれり

其角

氷

田まきいてまきまき氷の

沾徳

氷川や氷柱のけり氷の

流幅や氷の中は居る

其角

ききまはらり氷の

来山

こいさはらりぬれりまき

嵩登り一筆の氷を造る

蕪村

冬火

氷寒

山々の減るや氷の

こえくして熱の

沾徳

水仙

水仙や氷のけり

其角

水仙や氷のけり

水仙や氷のけり

麦林

水仙や氷のけり

蕪村

水仙や氷のけり

水仙や氷のけり

希因

水仙や氷のけり

蕪村

水仙や氷のけり

蕪村

葦	ちぢりもて葦を刈るを葦の那	葦村
葦	ふくこれやしんちのいりこる葦	葦
葦	瑞しこる葦うらぬりある舟	其角
葦	葦通の鼻のこりぬきこりま	麦林
寒苔	かんこるの鼻うらぬりある舟	葦村
暗鳥	荒一こるうらぬりある舟	其角
鯨	鯨市よりと鯨しこり	葦村
杜父魚	杜父魚のえりのとるをぬりある舟	其角
煮凍	煮凍や葦の舟のうらぬり	其角
生薬味	生薬味の舟やけぬりある舟	嵐堂

冬花

蕎麦湯	我が蕎麦湯	葦村
薬食	あつたつたを煮て煮くし	来山
葦	葦やしの葦を煮て煮くし	葦村
葦	うらぬりある舟	葦村
葦	葦の舟を煮て煮くし	葦村
葦	葦の舟を煮て煮くし	葦村
葦	葦の舟を煮て煮くし	葦村
葦	葦の舟を煮て煮くし	葦村
葦	葦の舟を煮て煮くし	葦村
葦	葦の舟を煮て煮くし	葦村

○十二月

早梅

おんもろくつらつて梅の徳の何

言水

〇十二月

のうらよ白の先とよ梅の氣

麦林

つ梅やしほ室の里れ夢を屋後

蕪村

寒梅

き梅をよめおんや先り肘

、

鐵骨と梅の
枝とよし馬の

を梅や火の通る鐵（トク）より

、

冬椿

こもろくそ景入る梅玉椿

言水

臘八

臘八や八流の共抄も山を出る

麦林

寒垢離

室垢離や上の町まで来るとなり

蕪村

寒念佛

吹り流流しなりや（きんぶつ）

其角

きんぶつ

きんぶつ佛持をこころに終る

、

及五

海飯

海飯の飲海いづるを念佛

言水

極楽

極楽の近道いづるを念佛

蕪村

佛名會

佛名會念佛なりを念佛

来山

寒聲

寒聲や南大門のあり月

其角

寒月

寒月や門を寺の天を

其角

寒月

寒月や庭後の羅漢のこころ

、

寒月

寒月や枯木の中より三竿

、

寒月

寒月や銀峯のけりさる

、

寒月

寒月や銀峯のけりさる

、

寒月

寒月や銀峯のけりさる

、

寒夜

ききあふ不破の園中人の行そ

芭蕉

氷の燈の付りかゝる角の都

蕪村

我を厭ふ陸の氷をぬる湯を以

並藏の氷をぬる湯を以

其角

寒作

かゝ鮭もや中平の腹もその肉

芭蕉

うら鮭の腹もその肉

蕪村

侘 浮沙 鮭鮭より白頭の吟を彫

鮭鮭や帯刀の屋の臺所

かゝる鮭もや中平の腹もその肉

生鮭

ほろりとして鮭のふるふるにけ

言水

冬 北

師使

鮭鮭ふ中平の腹もその肉

其角

師走

月をさし氷をいり流る鮭鮭

芭蕉

いふこの鮭鮭の市より角

市より今や鮭鮭の市より角

鮭鮭の腹もその肉

新堰をて食らふ中平の腹を以

酒酔くと病を憎む

妖まうら孤をま

損料り史記も沙をの

其角

其角

素堂

山隈のまきぎをすくると所を其角
 生るゝをりしきりし巻に
 前よりづりの小畑まよふと山を多
 山伏のえこころよまをさしこれ
 傍をくつらそのむらに梅の志
 着くころくさるるやまをさしこころ
 うらむとめづりしや山をのり門
 清経のゆるめゆきしころ古唐
 古唐不しき人しきまをさし
 これやこれ様まをさしぬ古様子
 其角
 嵐雪
 来山
 燕村
 嵐雪
 芭蕉

冬 此七

猿原してんやや深雪の深拂
 破もを巻もくはて来ころる深拂
 様まをさのまをさしきりし梅の志
 様ころりしはをれま人の深皮部
 鼻を掃孔花の玉や様ころり
 様拂くねとあま女扇先つじや
 とも拂や強人うまねる鏡をり
 まをさしきりし山をのり
 ともをさしきりし山をのり
 心信うまねるは山をのり

拂ふ屋をほもたふまふま
来山

ま掃ふをこころもぬるを
麦林

餅搥
月代や三十日より餅のを
芭蕉

餅の餅や志雲うける餅の袋
其角

弱法師の門ゆき餅の札
、

餅と屋や名もくく事とを
、

とねまふもきくはくや年餅
希因

はくまの餅をふりや年の言
嵐雪

餅花
とらまや加葉の餅かたれ
言水

冬卅八

とらまや加葉の餅かたれ

とらまや母のふれ園の梅

とらまや年の餅をふり
希因

とらまや灯をくく餅の紙
其角

とらまやまき餅をのぼる餅
麦林

餅搥
とらまやを雀のひらき餅
芭蕉

とらまやぬめ餅をくく餅
来山

とらまや海のむら餅をくく
麦林

とらまや餅をかたり餅をくく
其角

とらまやいたの餅をくく餅

年 <small>の</small> 市	掛 <small>と</small>	年 <small>内</small> 春	晩 <small>冬</small>	第 <small>分</small>	年 <small>越</small>	こ <small>し</small> 終	雜 <small>喉</small> 森
この市は縁香堂よき也	この市は縁香堂よき也	雪も一そよよき也	雪も一そよよき也	雪も一そよよき也	雪も一そよよき也	雪も一そよよき也	雪も一そよよき也
其角	芭蕉	素堂	素堂	素堂	素堂	素堂	素堂

冬世九

年 <small>の</small> 市	掛 <small>と</small>	年 <small>内</small> 春	晩 <small>冬</small>	第 <small>分</small>	年 <small>越</small>	こ <small>し</small> 終	雜 <small>喉</small> 森
雪も一そよよき也	雪も一そよよき也	雪も一そよよき也	雪も一そよよき也	雪も一そよよき也	雪も一そよよき也	雪も一そよよき也	雪も一そよよき也
其角	芭蕉	素堂	素堂	素堂	素堂	素堂	素堂

来山

年の夕	年の尾	年の内	流之年	岡見	年木樵
ちうの夜や一年のりまらそひ	この尾は鱗をいじし梅のま	この年の内	けさのれきうの年の後ならん	日のこくしを眼のり	おとろひや小枝も枝ぬく
来山	希因		其角	言水	嵐雪
其角			素堂		蕪村

冬四十一

衣配	年閑	年守	年取	年の皺	年忘
衣のふりかへてアノアノの年余れ衣配	静なるやうの閑をあること	りし年の守をささるるやうに守る	年をささるる鬼は後へ勢ぬ	羽衣やねのささるるやうの皺	乳母ふんすゝあつとも美女の年忘
麦林	来山	蕪村	其角	言水	其角

麦林

年の暮

其運もくわいさしきせし

蕪村

人やはさふふさふのあけし

素堂

陰の舞をまきまきし

芭蕉

ぬき人よあつておもしろ

其角

年暮ぬきまきし

其角

風をふき人のねもく

言水

雪ふりて人さかす

言水

まらぬまきをおよ

言水

まらぬまきをおよ

言水

小似峰りてたふらん

其角

五十一

年の暮

其運もくわいさしきせし

蕪村

人やはさふふさふのあけし

素堂

陰の舞をまきまきし

芭蕉

ぬき人よあつておもしろ

其角

年暮ぬきまきし

其角

風をふき人のねもく

言水

雪ふりて人さかす

言水

まらぬまきをおよ

言水

まらぬまきをおよ

言水

小似峰りてたふらん

其角

五十一

新編... 山嵐雪
 中... 来山
 三... 来山
 後... 来山
 中... 来山
 名... 来山
 芭... 来山
 白... 来山
 行年... 来山
 其角
 言水
 其角

冬四二

王子... 来山
 大... 来山
 中... 来山
 三... 来山
 後... 来山
 中... 来山
 名... 来山
 芭... 来山
 白... 来山
 行年... 来山
 其角
 言水
 其角

大晦日

勢あつて日くまきとみ大晦日

其角

玉子

大晦日あつて日くまきとみ大晦日

玉子

大晦日あつて日くまきとみ大晦日

大晦日あつて日くまきとみ大晦日

大晦日あつて日くまきとみ大晦日

大晦日あつて日くまきとみ大晦日

大晦日あつて日くまきとみ大晦日

大晦日あつて日くまきとみ大晦日

大晦日あつて日くまきとみ大晦日

俳諧十家類題集冬之部終

冬之三

